教員養成課程での教育心理学の専門教育の課題

―総合人間形成課程・人間発達領域の教育からの考察―

川原　誠司

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　別刷

2019年8月9日

宇都宮大学教育学部教育実践紀要　第6号　2019年8月9日

教員養成課程での教育心理学の専門教育の課題†
―総合人間形成課程・人間発達領域の教育からの考察―

川原　誠司*
宇都宮大学教育学部*

本研究は，宇都宮大学教育学部の教員養成課程での教育心理学の専門教育の今後のあり方について，新課程として存在していた総合人間形成課程・人間発達領域での学びから見えたものを通して検討するものである。人間発達領域の学生10名からの質問紙回答から，教員養成課程の教育心理学領域の学習状況が量的・質的に改善する必要があることが見出された。既にカリキュラムの改編に着手しているが，さらに学生の集団性に対して適切に教育することが重要であることが示唆された。

キーワード：教育心理学，教員養成課程，専門教育，総合人間形成課程，比較

1．問題と目的

本研究は，宇都宮大学教育学部の学校教育教員養成課程の中にある教育心理学領域の専門教育のあり方について，同様の専門性を学ぶ場所であった同学部の新課程として存在していた総合人間形成課程・人間発達領域での学びと比べながら，今後の教育心理学の学びについてどのような改善を模索すればよいかを検討するものである。

2009年度から発足した総合人間形成課程は，全国的な教員養成学部の新課程の廃止の動きに影響され，2016年度から学生募集を停止し，最後の入学年度である2015年度の学生は2018年度をもってほぼ全員卒業した。総合人間形成課程では教育学部にある様々な専門分野を6つの領域に集約・再編した。

その中で人間発達領域は教育心理学，教育学，特別支援教育学などを専門として学べるところであった。筆者はもう1人の教員と合わせて2名で人間発達領域の責任教員を担当し，授業担当を含めた学生教育を行った。2名の責任教員とも心理学が専門であることや本領域に所属した多くの学生の興味関心もあり，本領域の学生の8割以上は教育心理学を専門として学び，卒業論文を作成した。

逆もまた然りであるが，「隣の芝生」として教員養成課程の教育心理学領域の学生たちは存在し，人間発達領域の学生にとっては自分たちの学びと比較できる対象でもあった。

2．両カリキュラムの比較

教育心理学に関する人間発達領域のカリキュラムを教育心理学領域のカリキュラムと合わせて図1に呈示する。

総合人間形成課程のカリキュラムは学校教育教員養成課程のカリキュラムを包含している部分が多い。人間発達領域の場合には，教職課程の教育心理学の科目も利用してカリキュラム構成していることがわかるだろう。人間発達領域では，専門科目を34単位修得することが求められており，教員養成課程よりも多く受講する状況にあった。

その中で，中央部分の教育心理学領域の専門科目が人間発達領域の専門科目としても重なっていることが分かるだろう。教育心理学領域が必修で学ぶ「教育心理学実験」や「心理統計学」については，教育心理学領域と同様の年次で必修に準じる形で履修するように履習指導した。また，演習の履修も同様に行えるように配慮した。

---

† Seishi KAWAHARA*: The task of professional training of educational psychology in teacher training course: Consideration from the education of Developmental Science Area in Liberal Arts Bachelor of Education Program.
Keywords: educational psychology, teacher training course, professional training, Liberal Arts Bachelor of Education Program, comparison
* School of Education, Utsunomiya University
（連絡先：kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

総合人間形成課程・人間発達領域

＜基盤教育・専門導入科目＞
教育心理学

＜人間発達領域専門科目＞

生徒指導・進路指導
教育相談
子ども理解の心理学
幼児教育相談
臨床心理学
発達心理学
人格心理学
学習心理学
社会心理学
心理統計学
教育心理学実験
発達心理学特講
教育心理学特講
感情心理学特講
人間発達演習Ⅰ
人間発達演習Ⅱ
心理療法Ⅰ
心理療法Ⅱ
人間発達特講A
人間発達特講B
教育臨床学演習Ⅰ
教育臨床学演習Ⅱ
カウンセリング実習

＜総合人間形成課程・自己開発科目＞

人間発達領域入門演習
コミュニケーション演習
メンタルヘルス実習

学校教育教員養成課程・学校教育専攻・教育心理学領域

＜基盤教育・専門導入科目＞
教育心理学

＜教職科目＞
生徒指導・進路指導
教育相談

＜幼稚園免許科目＞
子ども理解の心理学
幼児教育相談

＜教育心理学領域専門科目＞

臨床心理学	3科目 6単位
発達心理学	
人格心理学	
学習心理学	
社会心理学	
心理統計学	必修 4単位
教育心理学実験	
発達心理学特講	2科目 4単位
教育心理学特講	
感情心理学特講	
教育心理学演習A	2科目 4単位
教育心理学演習B	
教育心理学演習C	

注）総合人間形成課程ならびに人間発達領域独自のものを網かけしている。

図１　心理学的な要素のある人間発達領域の開講科目と教育心理学領域の開講科目
（平成27年度入学者対象の履修表より／卒業論文に関する４単位を除く）

加えて，網かけで示したが，人間発達領域では責任教員や非常勤教員によって「心理療法Ⅰ・Ⅱ」や「人間発達特講Ａ・Ｂ」のような独自の科目も用意して，新課程で学ぶ学生にとって多少の利点がある

ように配慮した。さらに，総合人間形成課程では課程必修科目の自己開発科目の中に，心理的な要素の入った科目もいくつか含まれており，それらからも学習可能であった。

3. 方法

X年度に入学した人間発達領域の学生で教育心理学を専門として選んだ11名を対象に，4年次の2月に質問紙調査を配付・依頼した。最終的に10名の回答協力があった（回収率91％）。

質問紙は以下のもので構成されている。

(1) 総合人間形成課程と学校教育教員養成課程との印象差の評定と自由記述（課程間比較）

教育や教員との関係，就職に関して12項目を用意し，総合人間形成課程（以下，主に「総合人間」と略記）と学校教育教員養成課程（以下，主に「教員養成」と略記）とを比べて，各項目についてどちらの方にその印象を強く持つかを段階で評定してもらった。

段階については，Aを総合人間，Bを教員養成として，“A－a－0－b－B”という段階設定をした。中央の0のところは「両方ともほぼ同じと感じる」ときとし，その両側にある小文字のところは「やや総合人間（教員養成）のほうがそう感じる」ときとし，両端の大文字のところは「総合人間（教員養成）の方がそう感じる」ときとして評定してもらった。

またそれらの項目の下には“上記以外で「総合人間のほうが～」「教員養成のほうが～」ということがありましたら下にお書きください”として，他に感じる印象を自由に記述してもらう欄を設けた。

専門での比較以前に課程間の違いの印象を質問するのは，学生の違いの印象が，そもそも課程のありようから来るものなのか，それとも（次に述べる）人間発達領域の特徴として認識しているものなのかを確認するためのものである。

(2) 人間発達領域と教育心理学領域との印象差の評定と自由記述（専門間比較）

教育や教員との関係，学生のありように関して12項目を用意し，人間発達領域（以下，「人間発達」と略記）と教育心理学領域（以下，「教育心理」と略記）とを比べて，各項目についてどちらの方にその印象を強く持つかを段階で評定してもらった。

段階については，Aを人間発達，Bを教育心理として，“A－a－0－b－B”という段階設定をした。その意味合いは前項（1）の時と同じで，また項目の下に自由記述欄を設けたことも同じである。

(3) 具体的な違いについての自由記述

「総合人間形成課程や人間発達領域で学修生活を送ってみて教員養成や教育心理（の学生）とどのような違いを感じましたか」という教示で，しかも「具体的な事柄で具体的な違いが分かるように」という教示で自由に記述してもらった。これは後述するような単に身びいきで「自分たちの方がよい」とする評定でないことを示すために具体的な事象を挙げてもらうためである。

なお，具体的に記述するということは，固有名詞が示され個人が特定されてしまうという危険性を孕むので，「論考にあたっては使うときには，固有名詞等は曖昧にして個人が特定されないように十分留意します」という点をフェイスシートで説明した。

今回の方法の一つの留意点として，特定の年度の少人数の学生を対象としたものであり，専門間の違いであると一般化するには慎重にならなければいけないことである。(1）～（3）のような比較をするときに，回答者が自らが特定されるのを恐れたり，自らの所属の価値を貶めたくない心理が働かないとも限らない。そのために可能な限り率直に回答してもらう配慮が必要である。実施にあたっては上記の点に配慮して，回収は封筒に入れて提出できること，とりまとめて提出して個人を特定されにくくすること，自由記述に関して筆跡で個人が特定されるのを避けたい場合には，文字印刷したものを回答欄に張り付ける形でもよいことなどをフェイスシートに記載している。

4. 結果と考察

(1) 課程間比較

12項目の評定結果を表1に，自由記述の記載を文意を変えずに文末等を読みやすく修正して，表2に載せた。

表1の結果の中で，Aとa（総合人間形成課程のほう）で半数以上を示すものは網かけしている。項目2の「自律的な学び」については，教員養成の固定した免許取得科目と異なり，履修を自分自身で設計する部分の多い総合人間の特徴として認識してい

表１　総合人間と教員養成とを比べたときの学生の印象の結果

＜課程間比較＞ A. 総合人間←→B. 教員養成	A；総合人間のほうがそう感じる	a;やや総合人間のほうがそう感じる	O；両方ともほぼ同じと感じる	b;やや教員養成のほうがそう感じる	B；教員養成のほうがそう感じる
1. 積極的な学び	0	3	4	3	0
2. 自律的な学び	0	7	2	1	0
3. しっかりした学び	0	2	4	4	0
4. 社会につながる基礎スキルの獲得	2	5	3	0	0
5. 社会との接点やつながり	0	3	5	1	1
6. 自己理解や自己内省に関する機会	7	1	2	0	0
7. 多くの教員とのつながり	0	3	2	4	1
8. 教員とのコミュニケーション	0	4	4	2	0
9. 教員との具体的交流	1	3	5	1	0
10. 就職につながるカリキュラム整備	0	3	2	5	0
11. 就職へ向けた学部内支援	0	0	1	7	2
12. 就職活動の大変さ	2	3	4	1	0

注）Ａとａで半数以上になったものに網かけしている。

表２　総合人間と教員養成それぞれの特徴についての自由記述

【課程間比較】

1-1 教員養成は専攻ごとに色があり、あまり真面目な印象を受けない人も嫌々ながらも教採対策はちゃんとやっていたと思う。“やるべきことはやる”人が多い。〔A さん〕

1-2 一方、総合人間は各領域で色があるが，領域の壁をこえてずっと一緒にいるほど仲のよい集団もいくつか見られた。その仲の良さは大学生活のすごし方が似ている人がグループになっていた気がする。遊び優先の集団もあり、その影響力もあり、そこまで大げさではないが“カースト”のようなものもできたいたかも。そして、真面目でない人印象の人はそのままだった気がする。〔A さん〕

1-3 教員養成のほうが専攻全員で旅行に行ったり、全体として仲が良かったりするイメージがある。総合人間は領域で分かれているものの、人数が多い分、全員で何かをするのは少なかった。〔C さん〕

1-4 教員養成のほうが、就職系の支援は手厚いイメージ。また教員養成のほうが友人の幅が広い気がします。〔F さん〕

ることを示すものだろう。また，項目4「社会につながる基礎スキルの獲得」や項目6「自己理解や自己内省に関する機会」の評定が偏るのも，総合人間の必修科目として「コミュニケーション演習」や「メンタルヘルス実習」があることが影響していると思われる。

「就職活動の大変さ」について偏るのも，志望が教員に固定されていないこと，教員養成よりは活動先の情報収集の幅が広くなるという印象を受けてだろうと推測される。

項目11「就職へ向けた学部内支援」については，回答の虚偽の有無も検証できるようにしている項目であり，教員就職支援をしている本学部の特徴から見ても，Ｂやｂ（教員養成課程のほう）に偏るのは当然で，回答者がやみくもに自分たちの側に評定しているものではないことが分かる。

自由記述を見ると，1-1の教員養成の就職対策の明瞭な枠づけや，1-3の専攻内の仲の良さ，1-4の友人の幅について良さを感じる記述が見られ，それは逆に言えば総合人間の課題であったことが示されている。多様さがあるがそれゆえに同質のもののみで固まりやすいという1-2のような記述からも，学生の生々しい対人関係上の問題意識があったことも心に留める必要がある。

表３　人間発達と教育心理とを比べたときの学生の印象の結果

＜専門間比較＞ A. 人間発達←→B. 教育心理	A；人間発達のほうがそう感じる	a;やや人間発達のほうがそう感じる	O；両方ともほぼ同じと感じる	b;やや教育心理のほうがそう感じる	B；教育心理のほうがそう感じる
1. 積極的な学び	2	7	1	0	0
2. 自律的な学び	3	6	1	0	0
3. しっかりした学び	6	2	2	0	0
4. 専門的な学び	6	4	0	0	0
5. 広い学び	3	3	2	2	0
6. 深い学び	3	4	2	1	0
7. 多くの教員とのつながり	0	2	5	3	0
8. 教員とのコミュニケーション	1	2	6	0	0
9. 教員との具体的交流	3	1	6	0	0
10. 多くの所属学生とのつながり	1	2	6	1	0
11. 所属学生同士の交流	2	0	5	3	0
12. 学生からの所属組織への自主的発信・関与	1	4	4	1	0

注）Ａとａで半数以上になったものに網かけしている。

表４　人間発達と教育心理それぞれの特徴についての自由記述

【専門間比較】

2-1 人間発達のほうが、心理分野に関する基礎知識（論文執筆時の決まり、分析はどれが適切かの知識）があったように思う。〔A さん〕

2-2 教育心理は「出来る人」が何でもやってくれるだろうとか、「出来ない人」は何とかなるだろうというイメージがあった。「出来る人」にすがるイメージ、他人まかせのイメージ。〔A さん〕

2-3 人間発達は、一人一人が独立、または２～３人ではげまし合う、やり抜くイメージ。悪く言えば、全体がまとまって、卒論に関して「～がこうで～」という話がなかったように思う。〔A さん〕

2-4 人間発達のほうが所属学生同士で協力していこうという意識があったと思います。〔F さん〕

2-5 心理学的知識や心理学の論文に関する知識、心理統計の知識などの点では、「人間発達領域入門演習」「人間発達特講 B」の授業があった分、人間発達の方が理解に関して深かったと感じます。卒業論文作成の際は、人間発達の学生の方が論文作成ルールを理解していたようでした。〔G さん〕

2-6 教育心理の方が先輩後輩のつながりが強い。人間発達は先輩と会う機会自体少なかった。控室の使い方の違いかもしれない。〔J さん〕

(2) 専門間比較

12項目の評定結果を表3に，自由記述の記載を文意を変えずに文末等を読みやすく修正して，表4に載せた。

表3の結果の中で，Ａとａ（人間発達領域のほう）で半数以上を示すものは網かけしている。学びに関する全ての項目について人間発達の方に偏っている。項目1「積極的な学び」や項目2「自律的な学び」は9割方がＡとａであり，項目4「専門的な学び」に至っては10割である。このような専門的な学びの量や仕方については，人間発達のほうが恵まれていた部分，教育心理のほうに不十分さを感じる部分があったことが表4の2-1，2-2，2-4，2-5の記述からも示されている。

項目11「所属学生同士の交流」についてはほぼ同等の印象であった。自由記述の2-6のように，先輩後輩のつながりについては人間発達で不足している指摘もあり，複数学年の縦のつながりの弱さは人間発達の学生交流の課題であったことは，筆者の実感としてもある。

表3の学びの部分の結果の差はかなり印象的で，その時の学生集団の雰囲気もあるので毎年必ず同じようになるという一般化までは非常に難しいが，少なくとも調査した学生たちの集団では専門での学びの様子の差が大きかったことを示す。しかもそれは人間発達の自分たちを不当に高く見積もっているというより，教育心理のほうの学びを懸念している面がある感じを受ける。

人間発達にも教育心理にも熱心な学生やそこまで熱心でない学生は混在しているはずで，学生個人や学生たちの問題のみに帰するのではなく，カリキュラム上のあり方など何らかの構造的な要因も検討する必要がある。学生が具体的に何を感じたかは次に考察する。

(3) 具体的な事柄を示した記述での検討

(1) と (2) で段階評定で検討したが，具体的にどのようなところでその差を感じたかを探るために記述してもらったものをまとめ，考察する。なお，具体的記述にあたっては授業名や人名など個人が特定されやすい記述があるので，まとめる際には，3の (3) で述べたように，具体的表記は曖昧化して特定を避けるように配慮した。

表5にその結果を示した。課程間での具体的な差については，3-1や3-2に示されているように教員養成全体は目標を立てて準備しているという印象を語った学生もいた。それは，逆に言えば総合人間のある層の学生に問題が潜んでいることを示している。

表1の評定結果と表3の評定結果を比べると明確だが，冒頭の3項目「積極的な学び」「自律的な学び」「しっかりした学び」は両方で共通の質問だが，その結果については，“人間発達での評定＞総合人間での評定”という傾向であることが分かる。つまり，総合人間全体では人間発達ほどではないということであり，学びの熱心さについては総合人間の中でも人間発達で顕著であると回答学生は感じているのだろう。3-2で「人間発達は教員養成全体のマメさとほぼ同等」という認識を示した者もいた。

専門間の差について，教育心理の学生の依存性・回避性の強さや，意欲の少なさについて懸念したものがあった (4-1，4-4，4-8，4-11，4-12など)。授業の端々で垣間見られるものだったことがうかがえる。そのことは実際の評価にも影響していて，教員からそのようなコメントをもらったという記述 (4-6) や教育心理の学生から言われたという記述 (4-7) が見られた。

専門間だけでなく，総合人間の中から見て人間発達は真面目だと言われたという記述もあり (4-10)，表3のような人間発達の学びの印象が自他共に認められているということならば，それは表5の3-2に示されたような総合人間の一部の学生の不真面目さの印象と引き合う関係になっていると思われる。

見られる差の原因が，学んだ「量」や学びの「質」に起因していると推測される具体的指摘もある。4-3にあるように論文作成に関する具体的な内容を学んでいるかどうかは人間発達と教育心理で大きな差があることがうかがえる。4-13では，教員免許の科目の取得優先があると，教育心理の学生は専門の授業の受講年次が遅くなっていると推察される点を具体的に挙げている。図1に示したようにカリキュラム自体も人間発達のほうが科目数もやや大きくなっているし，また，教育心理のほうは卒論論文の単位を含めて専門の取得単位数が18単位であるのに対して，人間発達は34単位となっている (卒業論文の単位を除く)。人間発達のほうには教育学や特別支援教育の科目も履修表にあるので，教育心理学のみという制限ではないが，心理学に関心があれば34単位を教育心理学のみで履習可能だということである。そして単に単位総数の量的問題だけでなく，同一科目での受講の意欲差や態度差の印象記述を読むと，質的なものでも教育心理の様子には課題があったと思われる。

以上のような考察は，教育心理を貶めるために行ったのではない，総合人間形成課程が廃止になった今，筆者の学生指導は教育心理に完全に移行する。教員養成の学生のみになった現在，教育心理の学生をどのように教育すればよいかは筆者の焦眉の急となっているからである。

5. 全体的考察

(1) 人間発達領域での教育心理学教育の効果

繰り返し述べるが，今回の調査結果は人間発達のみを対象にしており，そして特定の年度を対象にしているので，結果の捉え方については十分に留意しなければならない。それでも数値や具体的な記述内容に着目して，人間発達での教育心理学教育についてはかなり効果があったと考えられる。

量的な面だけではなく，人間発達での教育の年次

表５　具体的事柄を示した自由記述

【総合人間と教員養成との具体的違い】

3-1 「教採＝試験対策必須」という面と「就活＝それほどの対策なくても数打てば当たる」という面の差が見られ、就活は準備をしなくても、適当でもそのうち１社くらいは受かるという思いがあると堕落した感じを続ける人も見られた。〔A さん〕

3-2 総合人間と教員養成全体で比較すると、教員養成全体の方がよりマメでこなす人が多い気がする。それは教員採用試験があるため、明確な目標を立てられることに違いを感じる。総合では、自分の領域以外の勉強の態度が SNS 等を見ていると意欲的でないように感じられた。人間発達に属しているため，自分たちの仲間がよく見えるのもあるだろうが、人間発達は教員養成全体のマメさとほぼ同等だったと感じられる。〔B さん〕

3-3 専門以外の授業の際、知識の差があり、教育に関する授業は基本が分かっていなかったので総合人間の自分にとっては難しかった。〔H さん〕

3-4 教員養成に比べて、総合人間は自由が多かったと感じた。自分の思考・意思でいろいろなことを決められた。〔H さん〕

3-5 保育関係の授業で、テーマを設定しグループごとに調べて発表する機会があったとき、話し合いの仕切りや、スライド作成は主に総合人間の学生となっていました。しかし、総合人間は専門的に学んでいないことから詳しいことは最初は分かっておらず、教員養成の学生が具体的なアイデア、テーマの内容を話していました。それでも、総合人間の学生は教えてもらった内容からまた違ったアイデアを出すこともあり、お互いの得意分野が上手く融合していたのではないかと思います。〔I さん〕

【人間発達と教育心理との具体的違い】

4-1 教育心理の卒論の進め方は出来る人に頼りっぱなしという感じや「何とかなるだろう」という感じがした。「教採」を理由に夏休みまで何もして来なかった人が私の近くではちらほらいた。忙しいのは分かるが本当に少しもやる暇がなかったのだろうか？〔A さん〕

4-2 教育心理の方がみんなで固まって進めるというイメージ、人間発達はよく言えばお互い干渉しない、悪く言えば個人化されすぎて卒論を進めるイメージ。〔A さん〕

4-3 人間発達の先生の演習を受講したか否かで大差がでたと感じられる。教育心理では論文の構成や引用の仕方など基本的な部分が分からない人が相当数いた。指導内容も半固定にした方が、差が出ないのではと感じた。〔A さん〕

4-4 専門の中で比べると、人間発達はマメでこなす人が多いと思う。教育心理は心理学を量的に人間発達より学んでいないからなのか、意欲の面でもあまり感じられなかった。適当であるとかギリギリでという点が目についた。〔B さん〕

4-5 良いことも悪いことも、教育心理は一緒になってやることが多い感じがした、例えば、ルールのある場所で２　名の人がそれを破った時に、１人のみがそれを先生に見つかったとしたら、もう１人の発覚していない人のことは隠そうとしたりしていた。人間発達も仲がよいとは思うが、悪いことは悪いとして変に隠そうとしたりはしないと感じる。〔C さん〕

4-6 人間発達以外の先生からの指導においても「人間発達はしっかり習っていますね」と認めていただいたことがあります。少なくとも心理学の学習における「質」という点で周囲の印象に違いがあるように感じました。〔D さん〕

4-7 自分は優秀な人ではないので申し訳ないと思いましたが、教育心理の方々が「分析方法の理解」「論文の書き方」「スライドの作り方」について人間発達の人のほうが「ちゃんと説明できる」「ミスが少ない」「上手だ」という話をしていたようです。全体的イメージはそうなのだろうと思います。〔D さん〕

4-8 実習系の授業の中で統計的な作業があったときに、教育心理の人は人間発達に丸投げしてきたように思う。また、人間発達においては解決できないときに何人か頼る人がいたが、教育心理では特定の人一人に甘えすぎている印象を受けた。〔E さん〕

4-9 教育心理の課題レポート作業を見ていたら、期限前日や当日に一箇所に慌てて集まって提出期限までに無理矢理終わらせる印象。他の学年でもそのように感じた。人間発達も文句を言うが、ちゃんとはやろうとしているイメージ。卒業論文のような自分だけのことなら動けているのだから、グループ活動にももっと積極的に関わってほしかった。〔E さん〕

4-10 総合人間形成課程の中でも他の領域から「人間発達はまじめだね」と言われることが多かったことから、総合全体というよりは人間発達の特徴かもしれないと思う。〔E さん〕

4-11 合同でグループワークをする時など、授業への意識の違いを感じた。人間発達では授業で分析の手順を身につけようとするのに比べて、とりあえず今回だけ乗り切ればよいという態度が教育心理で散見されました。グループのリーダーシップ的な役割も多くは人間発達の学生でした。〔F さん〕

4-12 実習系の授業でレポート書いたり統計的数値を算出したりすることがありましたが、そのときに取り組み方に違いが見られたように思いました。人間発達ではまず各個人が習ったことをたよりに結果を導き、書き方を考える。わからなくて教え合うことがあったとしても、それを基に再度自分でもやっていた。教育心理は全員ではないものの、できないという感じになったらできた人に見せてもらって終わりという人がいた。〔I さん〕

4-13 心理学の講義について、時間等の制約により受けられる数が異なっていた。教育心理は人間発達と比べ、教員免許の必修授業と重なったためか受講年度が遅くなっている人が多かった。〔J さん〕

進行も効果的に働いたと考えられる。2年次の「人間発達領域入門演習」で文献収集や文献講読を行い，3年次の「人間発達演習Ⅰ」で論文の書き方やそのルールを演習し，同時期の「人間発達特講B」の一部を用いて2年次の「心理統計学」の復習ならびに未履修部分の分析の仕方について学ぶことによって，学生は自然と力量がついた形で卒業論文作成に臨むことができたと思われる。

また，「コミュニケーション演習」や「メンタルヘルス実習」などの総合人間の必修科目も教員養成に比べて効果的に働いている様子も表1からうかがえる。これらの科目の意義については既に論考しているが（川原・永井，2012；川原，2015），現状の教員養成の中には入れることが難しいものでもある。

今回の調査以前から前述したような意義を筆者自身は実感していたので（個別に学生の感想として耳にする部分もあったので），総合人間の学生を募集停止した平成28年度からは，教育心理の履修表に「メンタルヘルス実習」「カウンセリング実習」の実習科目を加えて，総合人間の「コミュニケーション演習」「教育臨床学演習」「メンタルヘルス実習」の内容を引き継いだ。また，「臨床心理学特講」を加えて，人間発達の「心理療法Ⅰ」の内容を引き継いだ。また，平成31年度からは「教育心理学論文作成法」を新規開講し，「人間発達領域入門演習」や「人間発達演習Ⅰ」で行った論文作成のスキルのための授業を開講する（川原，2019）。

(2) 教員養成課程での教育心理学の専門科目教育の制約

人間発達と教育心理に量的に差があることはこれまでの分析の通りである。この量的な差は教育心理が，教員免許取得のための単位取得に物理的時間を振り向ける状況からも生じている。加えて，教育心理の場合は他の教科分野と異なり，専門で学ぶことが免許単位に全くつながらない。したがって，例えば極端に回避的な意識を持つ学生ならば，教育心理学の専門分野を学ぼうという積極性よりは，教員免許の取得に関係ないのでできるだけ楽なものを最低限にというような消極的受講も学生によっては引き起こしうる。

(3) 教員養成課程の利点を活かす

前記（2）のような言い方では教育心理では学べないと誤解されそうだが，当然そうではない。学びたいと願う人も相応にいることは、これまでの経験でも把握している。ただ，今回の調査結果の自由記述（表5）にも表れたような集団性の負の要素が混ざってしまうと，学びの活性化には向かいにくくなる。

今回の調査で教員養成や教育心理の特徴として人間発達から挙げられていたものとして「採用試験への努力の枠づけ」「仲間内や先輩後輩のつながりのよさ」といったものがある。これらの要素を今後の教育心理学の専門科目教育においても上手く活かしていく必要があるだろう。

(4) 今後の改善のポイント

専門科目に関して回避や軽視する意識を極力避けるようにしなければならない。そのためには早期にガイダンス等を行って，啓発等を行う必要があろう。枠づけ等も上手く行い，実際の努力等を促す必要があろう。

また，教育心理の特徴として良くも悪くも集団性という点が見られた。負の同調性につながるような要素を最小にし，リーダーシップを育てたり自律性・自主性が促されるようなソーシャル・サポートが起きるように工夫して，集団性の肯定的側面を引き出していかなければならないだろう。

引用文献

川原 誠司・永井 知子（2012）．必修科目としてメンタルヘルス教育を実施することの意味（1）――大学生の現状と課題――　宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，*35*，85-92.

川原 誠司（2015）.「コミュニケーション演習」「メンタルヘルス実習」という教育的実践（2014年度）　宇都宮大学教育学部教育実践紀要，*1*. 187-191.

川原 誠司（2019）. 教育心理学カリキュラムの体系化に向けて（2）――今後のカリキュラムづくりの視点――　宇都宮大学教育学部教育実践紀要，*6*.

平成31年3月29日 受理

The task of professional training of educational psychology in teacher training course : Consideration from the education of Developmental Science Area in Liberal Arts Bachelor of Education Program

Seishi KAWAHARA